



## 県 小中高生アンケート

県内の小中高生約1500人を対象に県が2025年度に実施したアンケートで、スマートフォンを持っている中学生が初めて8割を超えたことが明らかになった。交流サイト（SNS）のやりとりなどインターネットを介したトラブルは、小中高生とも約1割が経験していることが確認された。（牧里保子）



# スマホ所持中学生8割超

## 「依存」高校生の51%

県生活環境企画課によると、自分のスマホを使っている中学生は80・1％。前年度から5・5％増え、現在の形式で調査を始めた16年度以降で最も高くなった。小学生は37・4％、高

## 県警 ネットトラブル「相談を」

インターネット上のトラブルに関し、県警は「交流サイト（SNS）での悪口・暴言は侮辱罪や名誉毀損罪に、他人のパスワードなどを悪用した成り済しは不正アクセス禁止法違反に該当する可能性がある」と注意を促す。

県の調査では、ネットで知らない相手とやりとりを

高校生は99・3％が所持していた。  
25年度は初めてインターネット依存に関する質問項目を加えた。「依存していると思う」と答えた中学生は32・7％、高校生は半数超の51・2％に上った。  
ネットトラブルの経験は「知らない人・店からメッセージや迷惑メールが届いた」が9・1％で最多。次いで「SNSなどのやりとりで嫌な思いをした」が7・1％、「悪口や嫌がらせのメッセージを送られた」「無視や仲間外れにされた」

が6・4％、「ゲームやアプリでお金を使い過ぎた」が5・7％と続いた。  
相談する相手は家族が最も多く、高校生は友人も多かった。  
県は子どもをネットトラブルから守るため、利用時間や課金を管理するアプリや、有害サイトなどの閲覧を制限するフィルタリングサービスを活用を勧める。同課は「保護者が年齢に応じたコントロールをし、家庭でのルールも話し合って決めてほしい」と話している。

した経験のある中高生は約4割に上ることが判明。送信には至らなかったものの、裸や下着姿の写真を要求されたことがある人もいた。  
県警生活安全部は「素性が分からない相手の情報をうのみにしないことが大事。金銭、個人情報、画像の要求など、少しでも



〔問①〕大分県が2025年度に実施したアンケートで、自分のスマートフォンを使っている中学生の割合は何%で、それは前年度と比べて何ポイント増えましたか。記事の中から数字を抜き出して書きましょう。

・中学生の所持率 [ 80.1 ] % 前年度から [ 5.5 ] ポイント増

〔問②〕インターネットを介したトラブルの経験（小中高生全体）について2番目に多かったと紹介されているものを次の中から選び、記号で答えましょう。

- (ア) 知らない人や店からメッセージや迷惑メールが届いた
- (イ) ゲームやアプリでお金を使い過ぎた
- (ウ) SNSなどのやりとりで嫌な思いをした
- (エ) 悪口や嫌がらせのメッセージを送られた、無視や仲間外れにされた

<解答> (ウ)

〔問③〕記事によると、ネットで知らない相手とやりとりをした経験のある中高生は、全体のおよそ何割と紹介されていますか。

<解答> 4割

〔問④〕ネット利用について、大分県は「保護者」に対してどのような対応を求めていますか。記事の言葉を使って30字以内でまとめましょう。

<解答例>

年齢に応じたコントロールをし、家庭でのルールを決めること。(29字)

〔問⑤〕調査では中学生の32.7%（およそ3人に1人）が「ネットに依存していると思う」と答えています。ネットの使いすぎを防ぐために、家庭でどのような「ルール」が必要だと思いますか。あなたの考えを書きましょう。

自由解答